

岩手県立久慈高等学校

高校生まちおこし団体 INSPIRE

高校生ボランティア・アワード2022

「高校生でまちに彩を」

彩=人。まちに賑わいが無いのは、このまち(町・街)に足を運ぶキッカケがないからだと思い、イベントなどを企画実践しています。

このまちが好きだから! 廃れてほしくないから!!

そのために、今、私たちができることを!!!

大事にしていることは、多くの人とつながること。共感、応援、協働、新たに動き出す人などどんな形でもいいので、私たちの活動をおして多くの人がこのまちにかかわるキッカケになってほしいと活動しています。

活動の中で様々な方々と出会い生まれた結(つながり)は自分たちの財産となっています。

活動団体プロフィール

平成28年に初代メンバーがINSPIREを設立。団体名をINSPIREとしたのは、私たちの活動をおして、このまちに向き合うことを鼓舞したいから。そんな初代の想いに鼓舞され、まちへの想いに共感した後輩が受け継ぎ、現在活動している三年生は六代目となる。

主な活動は、初代から続く「まちこえ」と、各世代(0代目)ごとに、多様な主体とかわりながら、結をつくれるようまちおこしを行っています。



活動1 自分たちも彩に

「まちこえ」

①目的

私たちが商店街をフィールドにすることによって、何かが行われている様子からまちおこしの活動や商店街に興味を持ってもらい、足を運ぶキッカケをつくる。

②内容

月に一度、商店街の放送機器をお借りして、自分達で作った原稿をもとにラジオを放送する。放送内容は、学校のこと、季節の話題、地域の話など30分の放送を行っている。

③結果

商店街を通りかかった人や近くのお店のお客さんに見てもらえたり、何をしているの?と聞かれたりして、活動に興味を持ってもらう事ができた。反省点としては、放送をやる事自体が目的になってしまっていた事。宣伝も足りていなかったため、商店街に来るキッカケを作るという所期の目的が達成できない。誰に何を伝えたいのか、誰に宣伝すればいいのかを考える必要があった。



活動2 たくさんの人とつながる

「キラキラ大作戦」

①目的

INSPIREの活動を知ってもらうこと。私たちのイベントに参加してもらい、交流し、たくさんの人とつながること。

②内容

商店街の一角をお借りして、イルミネーションで装飾した写真撮影スポットを設置し交流の場を作った。来ていただいた方に自分達が商店街を盛り上げるために活動していることを伝えるなどしたほか、月に一度放送をしている「まちこえ」の宣伝を行った。また、これまでイベント後の街にはゴミが目立つことから、イベント開催中にゴミ拾いを行いマナー向上の啓発をしました。

③結果

このイベントでの成果は、積極的に来場者とコミュニケーションをとることにより、多くの人とつながることが出来たこと。来ていただいたたくさんの方に私たちの活動を知ってもらうことができました。また、ゴミ拾いしている最中には、地域の方々から「ありがとう」と言ってもらえて、私たちの活動を見てくれたり、興味を持ってもらえたりするを実感できました。反省点としては、企画を開催しただけで次につなげられなかった事です。成果としてたくさんの人とつながることができたと言いましたが、そのつながりを次に活かすことができませんでした。一度つながった人たちに、再度商店街や私たちの企画に来てもらえるように活動を発展させる工夫が必要だった。



活動3 いつかの未来へ

「INSPIRE x 三陸鉄道 Ribbon Project」

①目的

私たちの世代の高校生活は全てコロナ禍の中で制限を受けてきました。修学旅行に行けない、体育祭などのイベントは規模縮小。そんな中で大人の人たちからよくかけられた言葉は「普通の高校生活を送れなくて残念だね」「かわいそう」でした。でも、私たちは大人の人々の言う普通を知りません。私たちに普通とはなんなんだろう。そんなモヤモヤした気持ちをずっと持っていました。モヤモヤした気持ちと一緒に諦めもありました。どんな状況でも、コロナだからしょうがない。友達とおしゃべりしながらお昼ご飯を食べたり、お菓子を食べて。本当はそんなことがしたかったけど、コロナなら仕方ない。でも、そんな中でも私たちの高校生活は過ぎて行く。普通ではないかもしれない、かわいそうかもしれないけれど、それでも私たちは私たちの高校生活を精一杯楽しく過ごしている。

この企画では、私たちのこのような思いを知ってもらうために行いました。テーマは「未来へつなぐ」。今のこの気持ちを未来まで繋ぎたい。いつか来る普通と言われる時にこんな時期もあったねと言えたら良いなという思いを込めました。

②内容

三陸鉄道久慈駅さんの協力をいただき、駅舎、高架橋、車両をリボンで装飾しました。リボンは結ぶ、つなぐということをイメージし、駅は出発点として、ここから始まるということ、車両は未来へつなぐ象徴です。駅舎と高架橋に飾ったリボンには久慈高校3年生みんなの未来への想いが書かれています。車両にはインスパイアの活動風景や商店街の方など「つながる」をテーマにした写真ポスターを貼りました。ポスターの作り方は、青森県の高校生と交流したときに作り方を教わった方法で制作したものです。

約三か月間、リボンで装飾された車両は「INSPIRE x 三陸鉄道Ribbon号」として岩手県沿岸を走りました。

③結果

私たちの思いをリボンに書くという形で残せたことが成果反省を抜きにして嬉しかった。コロナ禍で制限があるなかで、あきらめず工夫して作り上げた「かわいそう」ではない自分たちの時間を実感できた。

多くのマスコミにも取り上げていただけたことから、三陸鉄道の宣伝にも一役を担うことが出来たと思う。たくさんの方が利用する駅という場所に自分達の思いを込めたリボンやインスパイアの活動がわかるポスターを貼ったことで、たくさんの方の目に留まったのではないかなと思う。

同級生とコロナ禍の想いを共有できたこと、初めて自分たち以外の人達(三陸鉄道)と企画を実行できたことは、多くの協働を生みつながりができたと思います。

反省点としては、どれだけの方がこのプロジェクトに共感してくれたかが不明であること。途中からインスタで情報共有はしたものの、反応を知る行動をとることはできなかった。



活動を振り返り

私たちが地域の方と直接お話しをして気づいたことは、大きく分けて二つあります。一つ目は地域の方は自分達の活動に興味を持っていてくれるということです。「なにしてるの?」「高校生が地域を盛り上げてくれようとしてるの!?!、すごく嬉しいなあ頑張ってるね」と、声をかけてくださった方もいて私達は自分たちの活動の意義を改めて実感することができました。二つ目は、地域の方々には私たちの活動に賛同し参画しようとしてくれるということです。場所や資材を貸してくれたりアドバイスを頂きました。自分たちだけでやっているつもりでしたが、実は多くのまちの人のおかげで活動できていることを改めて認識し、一緒にやることで「結」「このまちへの想い」が強くなることを学びました。

そして、新たな形も生まれました。私たちの活動にふれ、何かしてみたいと考えていた高校生が集まりグループをつくり活動が始まりました。

私たちが実施した活動内容の評価はともかく、つながることが出来た方々にこのまちについて考えるきっかけを作ることが出来たこと、新たな一歩を踏み出す後押しができたことが、活動を通して大きな成果だったと思います。

「Continue to INSPIRE for the future」

未来のために鼓舞し続ける

これからもINSPIREの活動が続いてほしいので仲間(後輩)を増やしていきます。これまでの活動の中で得た、様々な成果、課題・反省点、そしてこれまでつなげた「結」を後輩たちと共有し、活動が発展することを願っています。

そのために、自分自身もINSPIREと結ばれた存在として、これからも久慈のまちに、INSPIREの活動に関わっていきたくです。

INSPIREが何かしらの思いを持った高校生が活動できる居場所であって欲しいと思うし、そういう人たちを巻き込める魅力のある団体として存在することで、久慈にいる高校生が久慈にいて良かったと思えるような「まち」になってほしいです。

私たちが過ごした時間は、そう思える時間だったから...